

1 3	豊橋	松葉小学校	スズキ ユウト
			名前 鈴木 雄登
分科会番号	特	分科会名	「特別の教科 道徳」特別分科会

研究題目

他者と関わりながら自己を振り返ることで、
よりよい友達関係を築こうとする子の育成

—小学校1年 ユニット単元「友達ともっと仲よくなるために」の実践を通して—

研究要項

1 主題設定の理由

本学級の児童は、だれとでも一緒に活動したり、困っている子に対して「どうしたの」や「手伝うか」などと声をかけたりすることができる。また、問題が解けずに困っている子や、欠席した子の係活動を手伝う姿を見かける。1学期に取り組んだ「あしたは えんそく」の授業では、自分勝手な言動は相手を傷つけることになってしまうと気づき、優しい言葉をつかってみんなと仲よくしたいと考える子が多かった。一方で、友達を助けたいと思ってした行動が、相手の自分でやりたいという思いとずれていることによって衝突してしまう場面が見られた。そこで、子どものもっと仲よくなりたいという願いを実現させるために、友達とより仲よくするために大切なことを考えることができるようになってほしい。

「小学校学習指導要領、特別の教科道徳、第2節 道徳科の目標」の中で道徳性を養うために行う道徳科における学習として、「道徳的諸価値について理解する、自己を見つめる、物事を多面的・多角的に考える、自己の生き方についての考えを深める」の四つが示されている。一人一人が自分の考えをもって仲間と議論することによって、さまざまな考えがあることを知り、多面的・多角的な考えをもつことができるようになる。そして、議論によって導き出した共通解をもとに、自分なりの納得解を見つけていく学習によって、自分の生き方を見つめ、考えを深めることができるだろう。しかし、語彙が十分ではないため、話し合い活動だけではねらいに迫ることができない。そこで、体験的な活動を取り入れたり、系統的な学びの場を設定したりすることが大切である。

以上のことから、本実践では、自分や他者を関わらせて考え、日常生活での道徳的实践につながるような指導の方法を工夫する。まず、役割演技を取り入れ、さまざまな立場から人物の気持ちを考えられるようにする。登場人物になりきって考えることで自分の考えを見直すことができる。また、演技を見ている児童も演者の表情や動き、言葉などから同じ場面を演じていても多様な考え方があることに気づくことができる。次に、ユニット単元を構成する。ユニット単元は一つの大きなテーマを複数の価値項目の授業で長期的に学習することで、今までの自分の考えを比較しながら、テーマについて考えを深めることができる。役割演技とユニット単元を通して、よりよい友達関係を築きたいという気持ちを高めてほしいと思い、本主題を設定した。このように本実践では、「もっと友達と仲よくなるために」とテーマを設定し、優しいとは何かの共通理解を促す。その後、「みんなで仲よくするためのルール」や「相手の気持ちを考えること」へと学びを広げ、自分の生活に活かそうとする実践意欲を高めることができるだろう。

他者と関わりながら自己を振り返ることで、
よりよい友達関係を築こうとする子の育成

3 研究の構想

(1) 研究の仮説

仮説1 道徳の授業において、役割演技を取り入れることで、さまざまな視点でできごとを捉え、多様な考えに気づくことができるだろう。

仮説2 ユニット単元を構成し、振り返りにポートフォリオを活用する。そうすることで、今までの自分の考えと比較したり、異なる内容項目から一つのテーマについて考えたりして、友達との関わりについて考えを深めることができるだろう。

(2) 研究の手だて

手だて1 多様な考え方に気づくための役割演技の活用

役割演技では、演者は教材に描かれていない場面を即興的に演じることにより、登場人物に自分自身を重ねて考え、自分の感じ方や考え方を再考してことができると考える。また、別の登場人物の考え方に触れることができる。加えて、観衆は演じている友達の表情や行動を観察することで、友達の考えを知るだけでなく、客観的に登場人物の気持ちを理解しやすくなると考える。

手だて2 ユニット単元の構成と、振り返りのポートフォリオの活用

「友達ともっと仲よくなるために」をテーマにして、「友情、信頼」「親切、思いやり」「公正、公平、社会正義」の価値項目を含めたユニット単元を構成する。また、単元を通して振り返りを1枚の紙に書くことで、今までの自分の考えや異なった内容項目の考えを比べながら友達との関わりについてより深く考えることができるだろう。

(3) 抽出児童について

仮説の有効性を検証するために、抽出児童としてA児を設定し、授業中の発言や、振り返りを通して変容を見取っていく。A児は積極的に発言をしたり、友達の意見をよく聞いたりすることができている。しかし、友達の意見を聞いて考えを深めたり、過去の自分と見比べたりする姿は見られなかった。

そのため、友達の考えに耳を傾け、考えをより深めていってほしいと考えた。そこで、道徳の授業を通して、役割演技やポートフォリオを用いることで、友達の気持ちを考えて行動し、もっと仲よくなりたいという気持ちをもつ姿を期待する。

4 仮説実践のための検証授業

検証授業Ⅰ

- (1) 教材名 「やさしいひと みつけた」
内容項目 B 親切、思いやり
- (2) ねらい 優しさというものを具体的に捉え、友達に優しくしようという心情を育てる
- (3) てだて 教科書の挿絵から優しい人を見つけ、誰のために行動しているのかを考える。
その後、役割演技を取り入れ、どのように声をかけたらよいか、優しくされたらどのような気持ちになるかを考える。

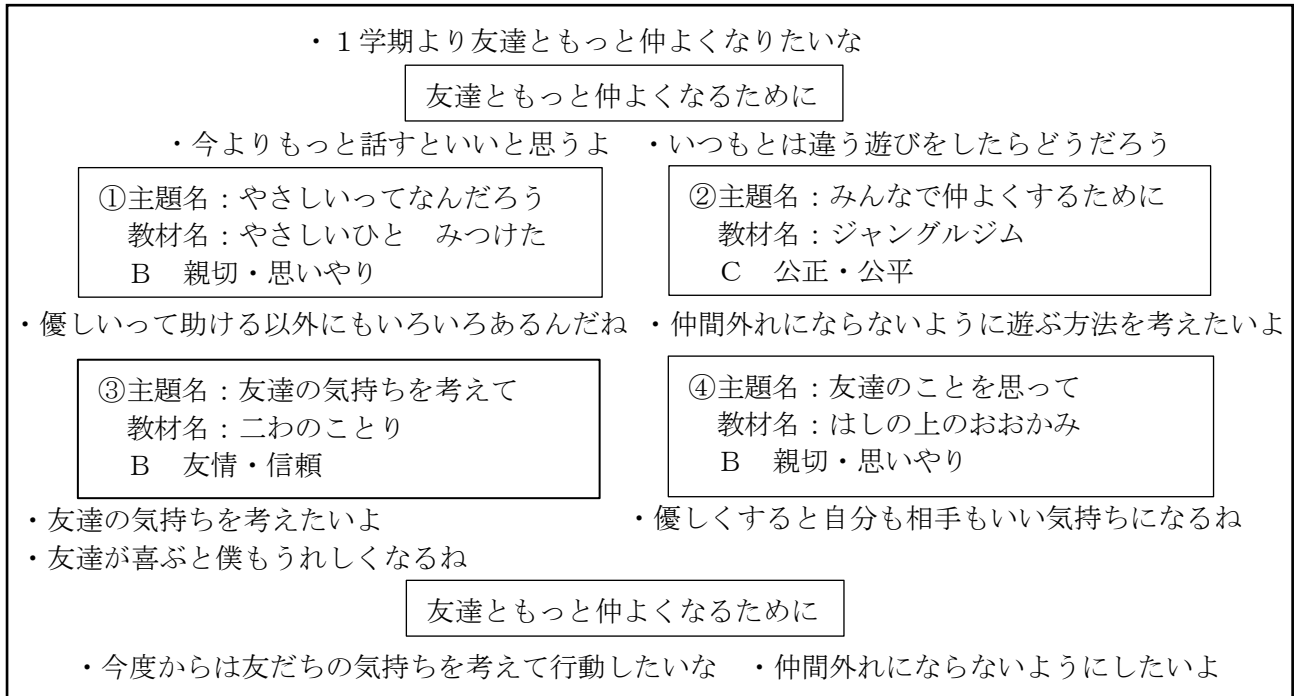
検証授業Ⅱ

- (1) 教材名 「にわの ことり」
内容項目 B 友情、信頼
- (2) ねらい 友達と心を通わせることの心地よさに気づき、友達との仲を深めようとする心情を育てる。
- (3) てだて 役割演技を取り入れ、観衆も演者も表情や動きを見ることで、どんな気持ちかを考えて行動することの大切さに気づくことができるようにする。

検証Ⅲ

ユニット単元を構成し、今までの自分の考えを見比べることができるようにする。意見を見比べることで自分の考えの変化に気づき、友達と仲よくなるために大切にしたいことについての考えをさらに深める。

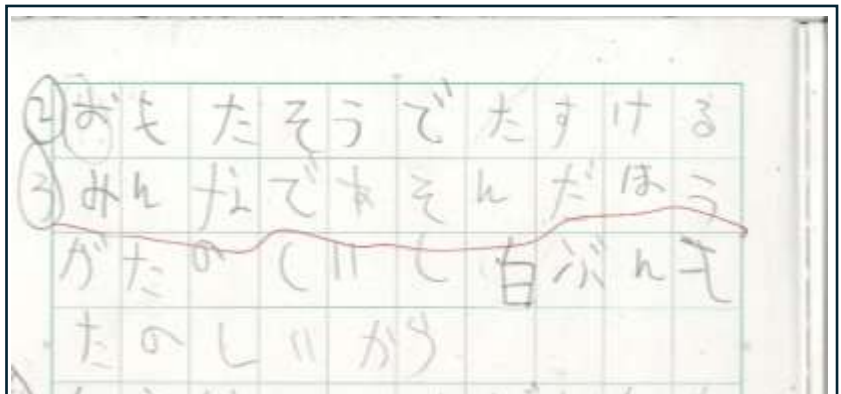
5 ユニット単元構想



6 研究の実践と考察

(1) 検証授業Ⅰ：教材「やさしいひと みつけた」を通して、優しい行動について多様な考えがあることに気づくことができるようにする（手だて1）

本授業では、導入で「どんなことにやさしいとを感じるか」と子どもたちに聞いた。子どもたちからは「困っている子を助けてあげる」という意見が多く出た。具体的に聞くと、「教科書を忘れた子に見せてあげる」「お茶をこぼした子と一緒に床を拭く」などの学校でよく起こる場面を考えていた。その後、教材を提示し、優しいと思う行動を選ぶ活動を行った。その後、「どうしてその行動を優しいと思ったのか」と発問した。多くの子どもが落とした筆箱を拾っている子や転んだ子に声をかけている子に丸を付けていた。理由を聞くと、「物が落ちたら困ると思うから助けてあげたい」「転んでけがをしていたらかわいそうだから助ける」というように「相手が困っているから助けたい」と考える児童が多かった。これは、導入で「困っている子は助ける」という意見が出たことが関係していると思われる。一方で、A児は、他の子と同じものに加えて、重たいものを持っている子に声をかけている子と一人で寂しそうにし

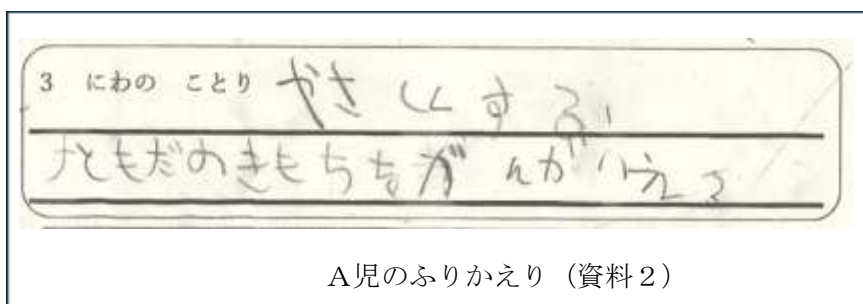


A児のノート（資料1）

ている子に声をかけている子にも丸をつけており、「おもたそうでたすける」「みんなであそんだほうがたのしいし、自ぶんもたのしい」と答えた。(資料1) それを聞くと不思議そうな表情を浮かべている児童が半分ほどいた。その中には「重いもの持つのって困るの?」と聞く児童もいた。A児はそれに対して、「なんとなく、困っているかもしれない」と答えると「私だったら困るかも」や、「僕はそんなに困らない。うれしいけど、自分でやれるのと思う」と意見が分かれた。「じゃあ、どうやって声をかけるといいのかな」と問い返すと悩んでいる児童が多くなった。そこで役割演技を行うことにし、重たいものを持っている子に対してどのように声をかけるとよいか考える場面を設けた。(手だて1) 子どもたちは「手伝うよ」と声をかけることが多かった。見ている子たちの中から、それでは困っていない子がどのように断ればいいのか悩んでしまうという意見が出た。「自分でできる」と断っても、「手伝う」「自分でやる」と思いが食い違いけんかになってしまうという考えをもつ子もいた。最後に演技を行った児童は「大丈夫?」から会話を始めていた。その聞き方なら「大丈夫だよ、ありがとう」と断りやすく、けんかにはならないと考えたようだ。A児の「困っているかも」という今までと違う意見から他の児童の考えに広がり生まれた。授業の最後に「優しいってどういう行動だと思う」と問いかけると、「相手のために行動すること」「相手を心配した気持ち」と児童が答えていた。A児は「大丈夫かなあ」と相手を心配する言葉を記述していた。本授業を通して、A児は役割演技を見たり、友達の意見を聞いたりすることで「なんとなく困っているかもしれないから助ける」という考えから「心配していることを伝える」と多様な考えに気づくことができた。

(2) 検証授業Ⅱ：教材「二羽のことり」を通して、両者の視点でできごとを捉え、友達の気持ちを考えて行動する大切さに気づくことができるようにする。(手だて1)

本授業では、自分の気持ちだけではなく、友達のことを考えて行動することの大切さを理解してほしいと考えた。導入として、検証授業Ⅰの授業の内容から自分が行った優しい行動を問いかけた。子ども達は、「筆箱を拾った」「転んだ子に声をかけた」といった子が多く、「配膳台の準備をしている子に声をかけた」というように困っているかもしれない子にも声をかけたと答える子もいた。その後、教材をパワーポイントを活用して教材を提示することで登場人物たちの関係性を丁寧に伝え、教材の場面を理解しやすいようにした。感想交流では、A児は「うぐいすの家に行ったのは優しいことだと思う」と発言した。一方で、「やまがらの家には誰もいないからさみしそう」「だれもきてくれなくて悲しそう」と一人ぼっちのやまがらの気持ちについて感想を述べる子もいた。A児は「やまがらさんがかわいそう」との意見にうなずきながら聞いていた。みそさざいが一度うぐいすの家に行ったことをおさえるために「どうしてはじめはうぐいすの家に行ったのか」考える場面を設けると「楽しそう」「景色がきれい」と答えた。しかし、うぐいすの家でのみそさざいの様子を尋ねると「楽しくない」「やまがらのことが気になっている」「一人ぼっちかもしれない」と述べたことから、自分の楽しさを優先してうぐいすの家に行ったものの、やまがらのことが気になっているみそさざいの気持ちを捉えることができた。そして、やまがらの家に行った後のみそさざいとやまがらの会話を役割演技をすることで二羽の気持ちを深めるようにした。(手だて1) 役割演技の中で、A児は「君がさみしそうだから来たよ」と言い、



A児のふりかえり (資料2)

「こっちへ来て楽しかった」と会話を続けた。観衆であった子も「みそさざいが楽しそうにしている」と演者の表情の変化にも気づき、役割演技を通して、やまがらの気持ちだけではなく、みそさざいの気持ちの変化の理由にも気づくことができた。振り返りでは、A児をはじめ多くの児童が「やさしくする。ともだちのきもちをかんがえる」(資料2)と記述していた。本授業を通して、両者の視点でできごとを捉えることで友達のことを考えた行動をとることの大切さに気づくことができた。

(3) 検証Ⅲ：ユニット単元を構成し、自分の考えを見比べることで変化に気づき、考えをさらに深めることができるようにする。(手だて2)

本研究では、ユニット単元の振り返りを1枚のポートフォリオにて作成し、授業で書いた振り返りを見返すことができるようにした。(資料3) 振り返りを書くときにその日の授業で学んだ内容だけではなく、これまでの学習での自分の考えと比べながら、単元のテーマについて考えを深めてほしいと考えた。また、自分の考えの変化に気づくことができるように最初と最後の考えの違いを横に並べて記述することで比較できるようにした。

文章で自分の思いを書くのが難しい児童も多いため、友達ともっと仲よくするために必要だと思うものに丸をつけるようにした、単元の始めは黒、単元の終わりは赤で丸をつけるようにして、言葉で表現できなくても単元の始めと終わりの考えの違いを見取れるようにした。(資料3) 資料の児童は単元の終わりで、「友達の気持ちを考える」のところに丸を付けた。理由を聞くと「相手が喜んでくれたらうれしい」と答えた。



A児は、単元の始めに「いっしょにあそぶ」と記述していた。この考えは検証授業Ⅰのノートにも記述がある。(資料1) 授業の振り返りでは、「大丈夫かなあ」「なかまはずれにしない」「やさしくする。ともだちのきもちをかんがえる」「ひとのきもちをかんがえてこうどうする」と一緒に遊ぶだけではなく、徐々に相手の気持ちを考えて行動することの大切さについて考えを深めていき、最終的には「おもいやりをたいせつにする」という振り返りで終わっている。(資料4) 単元終了後のまとめでは「なかまはずれにしない」ことを重要視し、理由を聞くと「仲間外れの子が悲しい思いをしちゃうから」と答えた。このことから、ユニット単元を構成し、振り返りのポートフォリオを活用することで、自分の考えを振り返りながら友達ともっと仲よくするために必要なことを考えることで友達との関わりについて考えを深めることができた。



7 研究の成果

手だて1 多様な考え方に気づくための役割演技の活用

検証授業Ⅰでは、困っている友達を助けようとするときにどのように声をかけたらよいか葛藤した場

面で役割演技を取り入れた。同じ声のかけ方でも受け取る人によって感じ方が違うことを実感し、「大丈夫」と心配するような声かけをすることで自分も友達も思いがすれ違わず、よい気持ちになることに気づくことができた。A児をはじめほかの児童も、振り返りで「大丈夫かな」や「何か手伝える？」といった相手に気を配る声かけを書いている児童が多かった。

検証授業Ⅱでは、一人ぼっちのやまがらのもとにやって来たみそさざいの会話の場面で役割演技を取り入れた。「どうして僕の家に来たの」というやまがらの質問に対し、A児は「君がさみしそうだからこっちへ来た」と答えた。見ている児童もうなずいており、友達の気持ちを考えて行動したみそさざいの思いを全体で理解することができた。観衆である児童の「みそさざいも楽しそう」という意見から、やまがらとみそさざいの気持ちの変容を全体で共有することができた。

そのほかの教材でも、役割演技で話したことや見たことを振り返りに書いている児童が多くおり、登場人物に共感したり、さまざまな視点でできごとを捉えたりすることができていた。このことから、多様な考え方に気づくのに役割演技を通した学習は有効だったと考えられる。

手だて2 ユニット単元の構成と、振り返りのポートフォリオの活用

1枚のポートフォリオを用いて振り返りを書くことで教材ごとの自分の考えが一目でわかり、考えを深めていったり別の見方で考えたことを把握したりすることができた児童が多くいた。また、最初の考えと最後の考えを書く枠を設けたことで考え方の変容を見取りやすくなった。記述するのが難しい児童でも、丸をつけて、発表する機会を設けることで自分の考えの変化に気づくことができたと考えられる。

役割演技やユニット単元を構成し、振り返りにポートフォリオを用いたことで、友達だけではなく、過去の自分の考えとも意見を比べ、「友達ともっと仲よくなる」ための考えを深めていくことができていた。このことから、ユニット単元の構成とポートフォリオの活用は有効であったと考えられる。

8 まとめ

本研究を通して、役割演技で他者と関わるだけでなく、振り返りをポートフォリオにして書くことで、多様な考えにふれながら自己を見つめ直し、友達と仲よくなるためにどのようなことが大切なのかを深く考えることができた。自分の思いを文章で表現したり、語彙が少ない児童でも役割演技を見たり、丸をつけたりする活動を通して多くの児童が相手の気持ちを考えることの大切さを理解することができていた。

A児は、積極的に発言したり、友達の意見を聞いて自分の考えに取り入れたりすることで自分の考えを深めていくことができていた。日常生活でも、一人で係の仕事をしている子に声をかけて手伝ったり、誰とでも遊ぼうとしたりする様子が見られた。友達の気持ちを考えて行動し、もっと仲よくなりたいという意欲が見られた。

今後の課題として、役割演技の実施方法と振り返りの書き方があげられる。本単元では、1年生から言葉をより引き出すために教師と児童で役割演技を行った。今後も役割演技を取り入れ、子ども同士でも言葉を引き出せるように、場面設定を工夫したり、始めのセリフを指定したりすることで低学年でも児童同士の役割演技を行うこともできるだろう。また、振り返りを書くことの苦手な児童に対して、文例を示したり、表情マークや短文で書かかせたりすることで、後から自分の思いを見返すことができるというポートフォリオのよさを存分に引き出せると感じた。